

春江駅周辺地区バリアフリー基本構想（案）へのパブリックコメント実施結果について

令和8年2月17日 坂井市建設部都市計画課

- 1 件名 春江駅周辺地区バリアフリー基本構想（案）
- 2 意見募集期間 令和8年1月15日（木）から令和8年2月3日（火）まで
- 3 意見提出数 1) 提出者数 3人
2) 意見数 7件

4 寄せられた意見と、市の考え方

No.	意見の内容	市の考え方
1	<p>第5章・バリアフリー化に関する取り組み方針について 春江駅は春江地区の中心的な玄関口として、通勤・通学のみならず、買い物や通院など、日常生活のさまざまな場面で利用されている重要な公共施設です。</p> <p>このような位置づけから、春江駅のバリアフリー改修は高齢者や障がいのある人を含むすべての利用者にとって必要不可欠な取り組みであり、強く賛同します。</p> <p>しかしながら、駅舎のバリアフリー化だけでは、実際の利用環境として十分とは言えません。駅までの経路や駅周辺の道路環境が安全に整備されていない場合は、誰もが安心して駅を利用することは困難です。特に、アルプラザアミ周辺、エンゼルランド周辺、福井空港周辺、春江小学校および春江中学校周辺は買い物客や子ども、高齢者など多様な人が行き交うエリアであり、歩行者の安全確保が強く求められます。</p> <p>また、嶺北縦貫道路をはじめとする駅周辺の歩道について、交差点部分における傾斜や勾配の流れ、路側帯に設けられた溝の構造は車椅子利用者にとって非常に危険な状況です。</p> <p>私自身、交差点を横断する際に車椅子の車輪が路側帯の溝に何度か嵌まりかけた経験があります。</p> <p>このような状況では、進行が妨げられるだけでなく、転倒や車道側への転落につながるおそれもあり、重大な事故につながりかねません。こうした実体験から、歩道整備においては単に段差を解消することだけでなく、交差点部の横断勾配や排水構造を含めた安全性の確保が不可欠であると考えます。</p> <p>春江駅のバリアフリー改修とあわせて、駅周辺道路や歩行空間、施設を含めた一体的な再設備を進め、車椅子利用者をはじめ、子どもや高齢者など、誰もが安心して安全に通行できる環境設備を強く要望します。</p>	<p>市の考え方</p> <p>ご意見のとおり、誰もが安心して安全に通行できる環境を実現するためには、駅舎だけでなく、駅までの経路についても、歩行者空間のバリアフリー化が課題であると認識しております。</p> <p>そこで、安全性への影響が大きい経路を中心に段階的・連続的に整備を進めていくため、駅舎及びその周辺800m圏を「重点整備地区」に設定しました（P23）。主な経路として、①県道102号（坂井市役所春江支所～随応寺交差点）、②県道29号（随応寺交差点～春江駅）、③県道29号（嶺北縦貫線）を含みます。</p> <p>本構想（案）は、このエリアにおいて、「歩道と車道との段差、勾配の緩和」「バリアフリーに配慮した側溝蓋やグレーチングなどの工作物の施工」など、道路等のバリアフリー化の取組方針に沿った整備を、まずは駅舎周辺から着手します。その他の施設については、P35に示す目標年次に沿って推進してまいります。今後も、誰もが安心して通行できる安全な環境整備に努めてまいります。</p>

全般について

私は駅東側の住宅地に居住し子育てをしている世代です。この地区は、新興住宅地として急成長していますが、駅の東側には商業施設が全く存在しません。現状および将来の子どもたちの安全、そして災害時の生活基盤を確保するため、以下の点を基本構想に強く反映させるよう求めます。

1 災害時の孤立を防ぐ「東側商業施設」の誘致とインフラ整備

現在、駅東側は「徒歩圏内に食料品や日用品を扱える施設」が皆無であり、災害時の物資補給を完全に駅西側の商業施設に依存しています。しかし、地震や豪雨でアンダーパスが冠水・崩壊すれば、東側住民は物理的に分断され、直ちに生活困難に陥ります。都市再生整備計画が目指す「安心・安全な交通結節点」には、東側住民の生存を支える備蓄機能や供給体制が不可欠です。本構想において、「駅東側へのスーパー等の民間商業施設の誘致」をまちづくりの重点方針に位置づけ、企業が進出しやすいバリアフリーな基盤整備を先行して進めてください。

2 路上駐車解消と「将来の通学路」の安全確保

現在、東口周辺は商業施設がないことも相まって、駅への送迎車両が路上に溢れ、歩行者の死角が多く極めて危険です。今は親が送迎していますが、数年後に子どもが一人で駅を利用して中学校（駅西側）や高校へ通う際、この無秩序な路上駐車の中を歩かせることに強い不安を感じます。東口広場整備においては、「送迎車両の専用乗降スペース（キス・アンド・ライド）」を十分に確保し、歩行者（児童・生徒）の動線と車両動線を物理的に完全に分離してください。

3 冠水・地震時における「児童の避難・待機」対策の明確化

将来、子どもが駅を越えて通学するようになった際、災害で帰宅困難や孤立が発生した場合の対策が本構想には不足しています。駅には避難所機能がなく、西側の避難所へも行けない状況が想定されます。駅舎のバリアフリー化事業（エレベーター設置等）を「災害時の東西連絡路の確保」と明確に位置付けるとともに、東口側において児童が安全に一時待機できる場所の確保を、民間誘致とセットで検討してください。

4 満足度指標（KPI）への「東側利便性」の反映

都市再生整備計画の評価指標である「満足度」において**「駅東側における生活利便施設の充実度」や「通学時の安全性」**を項目に加えてください。東側に商業施設がないという現状の構造的欠落を放置したままでは、基本理念である「将来にわたって住み続けたいまち」の実現は不可能です。

ご意見のとおり、生活利便性や災害時の安全確保、将来の通学環境などは、駅周辺とりわけ東側において非常に重要な課題であると認識しております。

その上で、番号1、3、4のご意見に関しましては、今回の構想が『移動の円滑化（バリアフリー化）』を目的としていることから、本構想の枠を超えますが、関係部局と共有し、今後のまちづくりや関連計画づくりにおいて、引き続き検討してまいります。なお、本構想（案）では、駅東口に関するバリアフリー化の目標として、道路特定事業（P37）の中に「連続的な歩道等の整備」、その他の事業（P39）の中に春江東口広場の歩道と駐車場の整備を盛り込みました。

番号2につきましても、取組方針（P34）に沿って、歩行者・自動車・自転車の動線整理（歩車分離）の徹底、ならびに、安全な送迎スペースの確保等に取り組むことで、あらゆる人が安全に利用できる交通環境づくりを進めてまいります。

3	<p><u>36ページ 春江駅 出入口 について</u> ミライロドアを設置してほしい。</p> <p><u>36ページ 春江駅 改札口について</u> QRコード対応自動改札機の設置。 福井県のはぴコインも使えるようになると良いのではないか</p>	<p>駅の出入口・改札口および券売機整備は、制度上、公共交通特定事業（P36）として実施するため、株式会社ハピラインふくいが主体となり、利用者数や設計・運行管理上の課題等を考慮しながら整備を検討しております。ご提案いただいたスマートフォンと連携した自動ドア（ミライロドア）につきましては、利用者の利便性向上につながる先進的な事例として、同社に情報提供いたします。</p> <p>また、「はぴコイン」につきましても、スマートフォンアプリ「ふくアプリ」を活用したデジタル地域通貨であることから、駅利用時の利便性向上につながる提案として株式会社ハピラインふくいに共有させていただきます。</p>
---	--	--